

石狩市公立小中学校事務職員第60回学校間連携会議

2015年2月20日14:30～
於：石狩市庁舎402号会議室

1. 議長挨拶

2. 経過報告

1月23日(金)	第59回連携会議
1月29日(月)	第59回連携会議 議案・記録HPアップ
2月6日(金)	石教振第3次研究協議会(南線小)
2月17日(火)	事務職員加配申請書・中間報告(花川中・樽川中分)HPアップ

3. 協議題

- | | |
|-------------------------------|------|
| (1) 2014年度各グループ反省について | ～別紙1 |
| (2) 「提言16」について | ～別紙2 |
| (3) 2014年度学校備えつけ教材教具消耗品調査について | ～別紙3 |

4. 実践交流

5. 連絡事項

2014年度 研究部反省（アンケート集約結果及び見解 : 回答数 13件）

【活動計画】（1）「領域としての学校事務」をより、認知・定着させるとりくみに関わって

Q1, 全道事務研をはじめとした、各種研究会参加体制の確立は図られていたか？

（ 9 ） 適切に各種研究会参加体制の確立については図られていた

（ 3 ） まあまあ各種研究会参加体制の確立については図られていた

（ 0 ） 各種研究会参加体制の確立について全部・一部に不十分さがあつた 記述欄へ

（ 1 ） その他

記述欄へ

全部・一部について不十分、その他に該当する場合は、以下にその理由を記載してください。

（記述欄・意見）参加体制とは何ですか！研修会参加は個人の意識ではないでしょうか！市内の研修が進んで他支部との状況交流ができる研修状態になれば変わるか？

（見解）全道事務研をはじめ、二次研究協議会等の研究会の参加体制（参加者集約や司会者・記録者決定等）を漏れなく行ってきたつもりです。各種研修会参加については基本的には個人の自由ではありますが、全道研は私たち学校事務職員が主催し、各支部交流を図る大事な機会でもあります。年に1度の大事な機会と考えますので、参加を前向きにお願いしたい。また、特に二次研・管内研は従来より、石狩独自の研究を深める大事な機会です。残念ながら最近では欠席者も多くなりましたが、過去の経緯や今後の研究を深める意味でも、積極的な参加をお願いします。

Q2, 夏季・冬季研修会に参加してみて、今後の実践推進に役立つ研修会となりましたか？

（ 6 ） 大いに実践推進に役立つ研修会となった

（ 3 ） まあまあ実践推進に役立つ研修会となった

（ 0 ） 実践推進に役立つ研修会ではなかった 記述欄へ

（ 3 ） その他

記述欄へ

役立つ研修会ではなかった、その他に該当する場合は、以下にその理由を記載してください

（記述欄・意見）参加出来ませんでした（2件）。

・夏季・冬季研修会の意義・位置が部員に理解されていないのでは。例えば部会としての位置であれば。夏・冬の部会としておさえるとか。

（見解）参加者が少ないというご意見だと思いますが、今年度の冬季研参加者は16名程度です。夏季・冬季研修の意義としては課業日ではない比較的時間の都合が付けやすい長期休業中に、時間や内容の制約を受けずに研修しようということで始まっています。部会同様に夏・冬季研も基本的には参加をお願いしたい。一人一人が石狩市の研修に参加・盛り上げていき、それが管内・全道の研修の推進へと繋がっているという意識を持つことが大切だと思います。

Q3, 市内協議会や連携会議との連携は図られていたか？

（ 9 ） 適切に市内協議会や連携会議との連携は図られていた

（ 3 ） まあまあ市内協議会や連携会議との連携は図られていた

（ 0 ） 市内協議会や連携会議との連携に不十分さがあつた 記述欄へ

（ 1 ） その他

記述欄へ

不十分さがあつた、その他に該当する場合は、以下にその理由を記載してください。

（記述欄・意見）メンバーの異動等があり、連携会議を立ち上げた目的等が忘れられているのでは。

協議会との関わりも管内レポートにはあるが個々人の心には入っていないのでは。そういう状況で動いているように思います。

(見解) 協議会・連携会議との連携はその内容、目的において、連絡・連携を密に行ってきました。しかしながら、ヒト(人)の入れ替わりで、当初の目的が忘れ去られている状況は否めません。市協議会事務局の反省でもありましたが、協議会・連携会議の区別などが曖昧だと感じている人も多いことから各事務局において、年度当初の確認、整理が必要だと考えます。

【活動計画】(2) 各種レポート作成などについて

Q4, 二次研究協議会等各種発表レポートについては研究部が主体的に作成しましたが、内容、作成、会員への周知などは適切であったか?

(1 1) レポートの内容・作成については適切で、会員への周知は十分に出来ていた

(1) まあまあレポートの内容・作成・周知は出来ていた

(1) レポートの内容、作成、周知について全部・一部に不十分さがあった 記述欄へ

(0) その他 記述欄へ

レポートの内容、作成、周知について全部・一部に不十分、その他に該当する場合は、以下にその理由を記載してください。

(記述欄・意見) 前の記述と同じで協議会、連携会議のどちらの研修として続いているかわからない状態ではないでしょうか。何を研修し、何が課題で、今何をしているのか、今後どうするのか、まとめがない状態で動いているみたいに思う。

(見解) 昨年度の反省でも述べましたが、石狩市では従前より連携会議での取り組みを市内研究と位置づけて行っているところではあります。

基本的には、当面、石事協の研究課題及び市内独自テーマを基に研究がすすむことになりかと思えます。

予算要望部反省（アンケート集約結果及び見解）

回答数 19 / 25

- ① 予算要望書内で取り上げている項目（印刷関連費・各教科実験材料費の保護者負担・他団体（PTA等）からの負担・役務費）の、調査内容や調査方法は十分であったか？
（ 十分・・・8 まあまあ十分・・・11 不十分・・・0 その他・・・0 ）
- ・調査内容は良かったと思う。ただ調査する前に調査後をどうするか（利用するか）考えておくことが必要。
 - ・多すぎてもまとまりがなくなるので今くらいでよいのでは？
 - ・継続して行くことが重要だと思います。
 - ・成果をあげるのはむずかしいとは思いますが、地道に要望していくしかないと思います。
 - ・作業としては確立・定着してきた感があるが、さらにみんなのアイデアを出しながら進められるとよい。

見解

*内容、方法については十分という回答が多いですが、成果となると？な部分があります。今後も同様に続けていくことはもちろんですが、各機関との連携を考える等、活かしている方法も考えていかなければなりません。

- ② 予算要望書で、他に調査したら良いと思われるものがありましたら、お書き下さい。
- ・今現在は思いつきませんが、そろそろ「教育財政に関する調査 第2弾」を検討してはと思います。
 - ・今年度なみで良いかと思います。また課題が見つかったら追加していくという形でよいのではないのでしょうか。

見解

*良い考えがあれば随時お聞かせいただければと思います。その際は、予算要望部でも、連携会議でもどちらでも良いのではないのでしょうか。

- ③ 今回、各校の印刷費をグラフ化してみました。良い活用方法がありましたら、お書き下さい。
- ・グラフ化は良かったと思うが、これをどの様に利用するか全体交流がほしかった。
 - ・校内資料として活用します。
 - ・わかりやすかった。印刷費削減のきっかけとなるとよいですね。
 - ・しいていえば折れ線グラフをのせて、何年に何があったから全体が変化しているというような分析をのせると良い？
 - ・掲載してもおもしろいと思います。
 - ・グラフはとてもわかりやすかった。今後も続けてほしいと思います。
 - ・要望書に書き込むのが一番いいと思います。
 - ・予算要望書にのせるのが良いかと思います。折角、グラフを作ったので、ぜひ活用したいものですね。

見解

*担当の方では、傾向があまり出ないので資料として載せるのを躊躇した部分がありましたが、分かりやすい等の意見も多いので、全体で交流後に掲載しても良いのではないかと考えました。

- ④ 上記以外に何かありましたら、以下に記載してください。
- ・ 予算配分の需用費の何を使って、保護者負担の軽減をはかるか。それによってこういう状況（状態）がおきるので予算増の要望が必要という流れが今後必要。
 - ・ 予算要望委員会での事務職員所管の部分の反応はどうであったか？いつか還元してほしい。
 - ・ 時間はないと思うが、各校交流は大事であると思う。
 - ・ 印刷関連支出の中でも「印刷機」の消耗品について考えていく必要があるのでは？
 - 単価の中に保守点検料が含まれている現状は改善できないだろうか？
（今後の契約においても、市教委へ再考を促すべきではないか？）
 - 本当に学校で「印刷機」が必要なのだろうか？（1回に利用する枚数も多くても数百枚（×学級分）程度だと考えると、他の機器（モノクロレーザープリンター）をメインで利用する意識を高めたほうが良いのではないか）
 - ・ お疲れ様でした。
 - ・ 市教委も要望書は見ているようなので、続けていくことが大事だと思う。
 - ・ その年でなにか特徴的なことを一つでも取り組めると良いと思います。
 - ・ すべてのグループの反省に共通するのだが、まずグループとしての自己評価を示すべきと思う。その上で、アンケート・回答しないと、活動の反省自体が他人任せになってしまう。
 - ・ 今回のアンケートで気がつきましたが、予算要望書内で取り上げている項目の調査物の提出先は、連携会議の事務局が多かった様に感じます。各グループが主体的に動くためにも調査物は、予算要望グループが取りまとめを行った方がスムーズに動けそうな気がします。（連携会議事務局にお任せきりとならないためにも。）

見解

- * 予算要望部の活動を簡単に言うと基本的には学校に調査を行い、予算要望書に活かしていくこと、そこで出てきた問題点などを会議で伝えていくことがメインになります。細かい現状の調査や各校の意識の様子の調査等は連携会議にも関係してきますので、その結果から活かせるものがあれば(互いに)利用していければよりよいものになると考えられます。前述もしていますが意見やいい考えがありましたらお聞かせいただき、話し合っていければと思います。

2014年 調査研修グループ反省 集約結果

回収19名

1、 視察研修等について

- ① 今年度は、ふらのフォーラム（8月1日）、苫小牧市立拓進小学校（10月3日）札幌市立上野幌小学校（11月11日）と合わせて3回実施しました。
実施時期、回数は適当であったか。
- ・時期（もう少し早い時期が良い② ・ちょうど良い⑩⑬ ・もう少し遅い時期が良い）
 - ・回数（ 多い⑥ ・ ちょうど良い⑩⑬ ・少ない ・その他① ）

〈意見 12〉

- ・一度しか参加できなかつたが、とても勉強になりました。
- ・数回に分けて少人数で行くのではなく、全体で一箇所に参加する方が良いと思う。参加人数が少ないと視察先に依頼しにくいのではないかな？
- ・時期については、9～11月は、研究会や研修会が多いのもっと早い時期だと参加しやすい。
- ・時期的にはどうしても11月頃になってしまうのではないのでしょうか。
- ・初めての試みでしたので、良かったです。
- ・フォーラム以外は1回で十分
- ・実施するのであれば、1ヶ所で良い。（ふらのフォーラムを除く）
- ・視察研修は1回程度で良い。今年度2回開催は大変だったと思います。
- ・視察研修の企画調整がたいへんだと思うので、1ヶ所にしてはどうでしょう。
- ・10～11月は行事と重なるので、出来れば早い方が良い
- ・メニューが多いので、選択できるという面では良いと思うが、人数等を考えるとしばった方が良いと思う。どちらにしても大変だと思う。
- ・機会が多いことは会員にとって良いと思いますが、担当は大変だったと思います。回数を減らしてはどうか。
- ・参加人数は思ったより少なかったが、選択できるというのは良いと思う。
- ・今年のように複数回実施すれば、「時期と回数」の善し悪しの評価は大きく異なると思うので一概に言えないが、今年の実施方法は先方の負担も大きくなく大変良かったと思う。

見解

実施時期については、概ねちょうどよいという回答が多かったことから、今年度並みでよいのではないかと思います。

回数については、ほぼ半数の方よりちょうどよいという回答がありました。今年度はなるべく多くの方が、一人一つは他支部交流に参加できるように・・・ということで、多様なニーズにお応えできるように、試験的な試みとして3回程実施という形になりました。

全体的に見れば3回の実施ではありますが、各個人として参加することを考えた時には、3回のうちから選択できるため、参加がしやすい状況という見方もできるのではないのでしょうか。

また、回数を1回に減らすことにより、参加者が若干多く見込めるというメリットもありそうですが、受け入れて頂く側のことも考慮すると、先方の負担が大きくなるというデメリットも見え隠れするのではないかと思います。

先方の状況等を考慮しながら、どのような形で実施したらよいか調整していくとよいのではないかと思います。

②視察等の内容は会員の研修に関わって適切であったか。

(良い⑭ ・改善した方が良い② ・その他①)

〈意見 7〉

- ・石狩の研修内容とマッチできれば。
- ・良かったと思います。今後に変参考になりました。
- ・学校毎に特徴もあるので、先方と相談しながらという方法で良いと思う。
 - ・双方の交流をするのであれば、15時開始では時間的に短か過ぎる。
 - ・開始時刻をもう少し早くした方が良い。時間があればもう少しゆっくりと校内を見学したかった。
 - ・参加していないのでわからない。内容等は何らかの形で還元してほしい。
 - ・前の回答に係わるが、複数回実施であったので、「多様なニーズ」に対応することも可能になると思う。個人的には、どの視察内容も良い内容だったと思う。

見解

概ね良いという回答が多かった。

内容については、冬季研で調査研修部より報告しています。また、今後HPにもアップする予定となっています。

開始時刻については、双方の負担にならない程度ということで15時スタートとしていました。開始時刻については、内容等を考慮しながら検討していけたらと思います。

③次年度も視察研修等は実施した方が良いか。

(・実施した方が良い⑩・実施しなくても良い②・どちらともいえない④・その他①)

〈意見 4〉

- ・講演を行うのであれば視察はなくても良いと思います。
- ・隔年実施でも良いと思う。
- ・今回のような方法、内容なら実施しても良いと思う。
- ・他管内、市町村の状況を知ることは大切なので、続けたほうが良いと思う。

見解

次年度の実施については、アンケート等で会員の多様な意見を取り入れ、実施の有無や実施方法を検討していければと思います。

- ④今後どのような所を視察したいか、次年度にむけてご意見がありましたらお書きください。

〈意見 4〉

- ・今年度のようにアンケートを行って実施していけるといいと思います。
- ・石狩以外の学校を視察したい。
- ・管内、市内の研究テーマと関連のある所であれば場所についてはこだわらない。
- ・学校の視察研修は受入れ側の都合もあると思うので、工場等の視察を考えてみてはどうでしょうか。

見解

次年度以降については、前の見解と重複しますが、アンケート等を実施して実施の有無等や実施方法、視察先も含め検討していければよいと思います。

2、講演会・出前講座について

- ①今年度は、出前講座を計画したが、先方の都合を考慮し実施することができませんでした。何かご意見がありましたらお書きください。

〈意見 10〉

- ・仕方ないです。でも出前講座は続けて下さい。
 - ・講師等の都合を検討し、実施出来るようであれば実施してほしいと思う。
 - ・相手側の都合なのでやむをえないと思う。
 - ・依頼する側の都合もあると思うので、可能な年度に行うという方向でいいと思う。
 - ・今回は残念でしたが、時期も含めて、そのタイミングで出来る講座をすれば良いと思う。
 - ・実施可能ならあった方がよい。
 - ・早い時期から開催時期を検討した方がよい。
 - ・出前講座もやっていいのだが、連携会議をつぶさない日程がよい。
 - ・今後の実施、必要なし。
 - ・時期的に比較的余裕のある冬頃にしか組めないと思う。相手に都合があるならやらなくても良いのではないか。
- 視察、講演会、出前講座を無理して全部やらなくても良いと思う。

見解

定例会、連携会議の時間を割いての実施が見込まれるため、協議会事務局と連携会議事務局と調整をはかりながら、実施できそうなタイミングに講師となる方の都合等も考慮しながら早い時期に計画していければよいと思います。

- ②次年度講演会・出前講座等で希望するものがあればお書きください。

〈意見 5〉

- ・学校における事務とのかかわりがある物が良いと思う。
- ・今年度出来なかったものなどどうでしょうか。もうダメなのでしたっけ？

- ・市の財政に関わることは事務職員にとって参考になるので、次年度以降で実施してほしい。
- ・市財政等に関するものであれば。
- ・協議会研修内容に近い出前講座を考えても良いのでは？

見解

今年度実施できなかった「石狩市の財政について」再度希望するのであれば、今年度の日程と異なる日を設定したほうがよいと思います。（12月は市の次年度予算編成のため、ヒアリングで多忙とのことなので。）また、市の財政と学校における財政状況との関連性を含めたお話しを希望とするなら、あらかじめどのような部分を切り込んでお話しを聞きたいのか明確にしないと、市の予算と決算のお話しを聞く時間となりそうです。

3、学校事務の改善について

今年度、就学援助の手引きにとりかかろうとしている矢先に、システムが変更になるということで、次年度とりくむ次第となりました。ご意見があったらお書きください。

〈意見 5〉

- ・時期的にやむを得なかったのではないか。
- ・就学援助の手引きは作成した方がよい。その中に流れ、システム等の動きを入れておいては（例えば、計画書等は提出しなくても良い等変わっています。）
- ・誰が見ても分かる手引きになると良いですね。
- ・就学援助だけでなく、市経理、給食、市費職員関係など市費に関する手引きをまず、データとして保有し、事例交流を活用しデータ修正をしていくような取り組みを考えてはどうか。
- ・たいへんだと思いますが、よろしくお願いします。
人の入れ替わり、年齢のバランスもあるので、部で改善する内容があればとりくんでください。

見解

まずは、就学援助のシステム変更に伴って、手引きの作成が次年度の最優先事項になります。手引きの中身については、就学援助事務の流れも必要なので、システムの動きが入るのではないかと思います。

就学援助以外の部分については、次に優先したほうが良いものをまずは決定して事例交流等を活用しながら、市事協事務局と連携をはかりすすめていければよいのではないかと思います。みなさんのご意見をお聞かせいただければと思います。

4、その他

上記以外に何かお気づきの点がありましたら、お書きください。

〈意見 2〉

- ・事例交流において、給与、サービス等の不明箇所の各所照会、会員連絡等は現在協議会事務局で担っているようだが、負担も多いので、調研部で担当してはどうか？
（業務バランスを考えて・・・）

- ・すべてのグループの反省に共通するのだが、まずグループとしての自己評価を示すべきと思う。その上で、アンケート・回答としないと、活動の反省自体が他人任せになってしまう。

見解

協議会事務局との仕事分担については、事務局と相談して検討していければと思います。

今年度は、全体の反省となり多様なご意見をお聞きしたり、反映しやすい機会となりました。今回の調査研修部の反省が他人任せにならない様に、調査研修部ひとりひとりの活動の反省となればよいと思います。

<別紙2>提言16について

前回の連携会議で提案し了承されました今年度の提言についてですが、提言16「学校配分予算の調整について」事務局で今年度の提言として提案させていただきます。

次回の連携会議で提案させていただきます2014年度石狩市の連携会議において今年度の提言として掲載したいと考えています。本日、皆さんから忌憚のない意見をいただいて決定していきたいと思っております。

提言 16 学校配分予算の調整について

提言内容

1. 学校配分予算の調整について、当分の間、学校配分予算の効率的執行のため実施するよう教育委員会として検討すること。
2. 各学校は、学校配分予算の調整について適切に実施できるよう、学校財政に関する調査・分析活動を充実させること。

説明

第49回連携会議（2014/2/21）の際に郵券代とクリーニング代が不足している現状について交流・論議を行いました。その内容は、①郵券代やクリーニング料などの役務費については、学校によって過不足の度合いが異なっていること、②しかし、学校配分額はこれらの事情について考慮されておらず、過去の配分実績に基づき配分されていること、③節間流用を希望する声も多いが、財務規則の変更を要するなどハードルが高いこと、④学校配分総額を変えずに、節毎の金額を変更できれば、当面効果的執行が可能になること、などです。

この交流・論議を受け連携会議は、「日刊連携会議No.111」で「学校配分予算の調整」について提起するとともに、第50回連携会議で、

ア) 上記④の方法が今後の学校予算にとってメリットがあるのかどうか

イ) ④の方法を模索する場合、具体的にどう進めるか

について検討を行いました。この段階では、多くの学校より「比較的予算に余裕がある食料費や印刷製本費あるいは修繕料を減額して郵券料を増やすことが可能になることで、より効果的で無駄のない執行が可能となる」との意見があったものの、「4月当初においての学校間の調整は難しいのではないかと」の意見あり。次年度の連携会議において例年より詳しく決算書の交流を行う。各校の調整して欲しい項目を確認した上で、調整が可能か可能性を探っていくため、時間をかけて教育委員会と意見交換を進めるという結論に達しました。

一方、予算要望グループでは、「教育予算要望書 要望事項用紙」を集約し「現在の学校配分予算の在り方」等について夏季研（2014/7/25）において交流を行いました。やはり、予算の増額や細節間流用を望む声が多い結果となりました。

このような経過を受け、9月には教育委員会から「効果的な予算執行のために市教委から財政課へ各学校の考え方を提案する」との提案があり、連携会議側は、需用費・役務費・備品購入費の範囲で増減が可能な項目について過去の実績や次年度の必要性などある程度明確な理由を示す事で各校ごとに学校配分予算の変更について調査を行う事とし「日刊連携会議No.114」において課題整理を行いつつ、配分調整額について各校から具体的数字をあげてもらいました。その結果、21校中19校が予算変更を希望し金額を指定しました。今後教育委員会と財政局の協議を経て学校配分額が決定されることとなる予定です。

「学校配分予算の調整」は、配分予算増が困難な状況下での次善の策であり、本来は不足する財源の増額が重要であることはいまでもありません。しかし、各学校が学校課題の改善や学校目標達成のために、現に配分されている予算を効率的・効果的に執行するため予算計画を策定することは、学校財政事務活動の重点的業務です。従って、予算担当者である事務職員には、これまで以上に学校予算に計画性と責任制が必要になると思われ、校内予算計画算定のための調査・分析活動をさらに充実させることが必要です。

<別紙3> 2014年度 学校備え付け教材教具消耗品調査について

前回の連携会議で提案させていただいた調査について集約結果及び見解をまとめさせていただきました。検討していただき次年度の研修につなげていきたいと思ひます。

集約をおこなった3項目については全体的に学校備えつけとして常備している学校が思ったより多いなという印象を受けました。しかし、保護者負担をお願いしている学校や持参している学校もあり今後も継続調査を続けていきたいと思ひます。

2014年度 学校備えつけ教材教具消耗品調査 (アンケート集約結果及び見解)

☆竹ものさし

備え付けですか？

(はい・・・7 いいえ・・・3)

竹ものさしはどのように準備していますか？

(保護者負担・・・2 持参・・・0 代用・・・0 使用しない・・・1)

竹ものさしの学校備えつけ、どのようにお考えですか？

(検討中・・・0 今後検討したい・・・2 必要性を感じない・・・プラスチック製の定規を使っているため)

見解

竹ものさしについては、授業時数も少なく2学年でしか使わない物であり、値段も安価な事もあり学校備えつけの学校が多いが、保護者負担の学校も見受けられます。しかし、保護者負担の学校については今後、学校備えつけを検討していくとのことで今後は追跡調査を行いながら保護者負担軽減につなげていければと思います。また、プラスチック製の定規で代用している学校もあるようだが、学習指導要領の上で竹ものさしでならないのかプラスチック製の定規で代用が可能なのかも今後、調査していきたい。

☆ホビーソー (のこぎり)

備え付けですか？

(はい・・・9 いいえ・・・1)

ホビーソーはどのように準備していますか？

(保護者負担・・・0 持参・・・0 代用・・・0 使用しない・・・1)

ホビーソーの学校備えつけ、どのようにお考えですか？

(検討中・・・0 今後検討したい・・・0 必要性を感じない・・・理由なし1)

見解

最近の家庭ではなかなかのこぎりを持っている家庭も少なくなってきており、このために家庭にのこぎりを準備させるまではないとの考えも多いせいかほとんどの学校で学校備えつけとして準備しているようです。ただし、使用しない学校も1校あり、竹ものさし同様に、学習指導要領の上で必要な観点を調査していきたい。

☆ダンボールカッター

備え付けですか？

(はい・・・6 いいえ・・・4)

ダンボールカッターはどのように準備していますか？

(保護者負担・・・0 持参・・・1 代用・・・2 使用しない・・・1)
カッター・・・？

ダンボールカッターの学校備えつけ、どのようにお考えですか？

(検討中・・・0 今後検討したい・・・3 必要性を感じない・・・理由なし)
代用がきくので

見解

ダンボールカッターについても半分以上の学校で学校備えつけとして準備しているようです。残りの学校でも学校備えつけを今後検討していくとのことで今後も追跡調査を行っていききたいと思います。ただし、使用しない学校も1校あり、竹ものさし同様に、学習指導要領の上で必要な観点を調査していきたい。

その他

そろばん 連絡票入れ

見解

次年度以降の継続調査として「そろばん」「連絡票入れ」も追加項目とし調査を続けて行きたいと思えます。今回は時間の関係で未提出の学校の状況についてはお聞きしませんでした。次年度までには全校の状況を調査して全校で取り組んでいけるようになっていければと思います。どうしても小学校が中心の取り組みとなってしまうので、中学校でも取り組める項目が取り組める項目がないかももう一度検討していきたいと思えます。